

読売新聞 きょう（1月13日）のイチ押し

1面など オミクロン株 濃厚接触者の待機短縮 政府検討

政府は、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」感染者の濃厚接触者の待機期間を現在の14日間から短縮する方向で検討に入りました。従来株より潜伏期間が短い可能性があるためです。

- ★ 国利感染症研究所によると、沖縄県でオミクロン株感染が確認された人の潜伏期間は3日前後でした。厚労省助言機関のメンバーは、10日間程度に短縮できると提言する方針です。
- ★ オミクロン株のまん延で国内の新規感染者は急増しており、12日は1万3244人と、約4か月ぶりに1万人を超えました。わずか8日で1000人台から1万人に達しています。
- ★ 緊急事態宣言に準じた対策が可能になる「まん延防止等重点措置」は沖縄、山口、広島の3県に適用されていますが、熊本県や愛媛県も適用要請を検討しています。広島県は対象地域を、広島市など13市町から県内全域へと広げる方針です。

スポーツ面 サッカー日本代表の富安「常にアジアで1番」

大詰めを迎えているサッカー・ワールドカップ（W杯）アジア最終予選で、日本代表チームの命運を握る選手の1人が、世界最高峰のプロリーグでプレーする23歳の富安健洋（とみやす・たけひろ）選手です。本紙のインタビューに、W杯出場に対する熱い思いなどを語っています。

- ★ 2021年夏に移籍したイングランド・プレミアリーグのビッグクラブ、アーセナルで、レギュラーとして活躍。その自信を胸に、「アジアの中で日本は常に1番でないといけない」と言い切ります。
- ★ 最終予選は残り4試合。日本は現在の順位であるB組2位以内で終われば、7大会連続7度目のW杯出場が決まります。今月27日の中国、2月1日のサウジアラビアとのホーム2連戦がカギを握ります。

他紙と比べて

15日から全国一斉に行われる大学入学共通テストを前に、文部科学省は、新型コロナウイルスへの感染などで共通テストを受けられなくても各大学に個別試験で可否を判定するよう求める救済策を打ち出しました。テスト直前の急な要請に、大学や受験生には戸惑いが広がっています。社会面で詳しくまとめています。